

群 教 セ	E03 - 03
	平 14.206 集

考えを深め

追究を続けようとする児童の育成

—— ペア交流を取り入れた総合的な学習の時間

「知らせよう！新発見 駒形の人やまち」を通して ——

特別研修員 山下 綾子

《研究の概要》

本研究は、新発見した地域や地域の人々のよさを知らせる活動を通して、考えを深め追究を続けようとする児童の育成を目指す実践的研究である。ペア交流の場を意図的に設定し、相談したり活動を振り返ったりすることによって、児童が考えを深めながら、課題を具体的に設定し、自分の追究してきたことのよさや不備な点に気付いていく。そして、追究してきたことの成果に気付き、新たな追究への意欲を持つことができるようにしていく。

【キーワード：教育課程 総合的な学習 - 小 地域教材 ペア交流 相互評価】

主題設定の理由

本校のある駒形町は、昔からの街道沿いにあり、古い町並みの名残や商店、住宅が多い。下増田町は、田畑が多く自然が豊かである。学区内には、歴史を感じる建物や史跡もあり、古くからの言い伝えや伝説も残っている。そして、地域のために功績を残した人々もいる。日常生活では、学区外の大型店舗で買い物をする児童が多く、友達との遊びも学区内で遊び回ることが少なくなり、地域や地域の人々との関わりも薄くなっている。

5年生児童（男子 43 名、女子 42 名、計 85 名）は、4年生での学習で、体験したことや調べ学習をしたことは楽しかったと答えている。しかし、一つの体験活動から課題を設定していたため、児童の思いが広がらなかったり、事象とじっくり関わることができなかったりした。調べ学習の方法もわかり、はじめは意欲的に調べていたが、次第に興味・関心が薄れてしまい、意欲を持ち続けて取り組める児童は少なかった。それは、自分の活動に対して、振り返る場が意図的に設定されていなかったり、課題の修正ができなかったりしたためと考えられる。また、自分の活動の進展に気付かず、意欲が続かなくなってしまったためと考えられる。

そこで、身近にいる地域の人々や駒形地区のよさについて関心を持ち、自分との関わりを感じることができる「知らせよう！新発見 駒形の人やまち」を構想した。この学習では、いくつかの体験活動を行うことによって、児童が事象とじっくりと関わることで課題を設定し、課題を追究できるようにした。その過程で、設定した課題を交流する場や自分の調べたことをまとめ、自分の活動を振り返る場を設定し、児童が課題を確認したり、調べた内容を修正したりすることによって、考えを深め追究を続けられると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

総合的な学習の時間において、課題を設定するために相談をするペア交流 追究活動を振り返るペア交流 俳句カード作りの相談や学習全体を振り返るペア交流を行うことにより、考

えを深め追究を続けようとする児童が育成されることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 つかむ過程において、「自分の課題」「調査内容」を相談するペア交流を行うことにより、児童は、課題を具体的に設定したり、調査内容を広げ深めたりすることができるであろう。
- 2 追究する過程において、中間交流会に向けての活動の途中や中間交流会後に自分の活動を振り返るペア交流を行うことにより、自分の追究してきたことのよさや不備な点に気付くことができるであろう。
- 3 まとめ・広げる過程において、新発見マップの俳句カード作りの相談や全体発表会後に学習を振り返るペア交流を行うことにより、追究してきたことの成果に気付き、新たな追究への意欲を持つことができるであろう。

研究の内容

1 基本的な考え方

(1) 「考えを深め追究を続けようとする」とは

考えを深めるとは、児童が課題を設定し追究したり、まとめたりする過程で、多くの考えや方法にふれ、解決に向けて取り組みながら願いや思いを持ち、活動する姿ととらえる。児童が自分の課題を追究するときに行き詰まったり、追究の意欲が続かなくなってしまうことがある。それを乗り越えるためには、課題や自分の活動を振り返る場が必要であり、自分自身で修正していくとともに教師の支援や友達のアドバイスによって修正していくことが大切である。その活動の中で、友達との相談や相互評価から、友達のよさに気付き、自分の活動に生かし、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。また、友達の活動と比較することによって自分の活動や考えのよさにも気付くことができると考える。意図的に振り返る場を設定し、自分の活動についてもう一度考え直し、活動の深まりに気付きながら、それを繰り返すことによって、意欲を持って追究が続けられると考える。

(2) 「ペア交流」とは

二人の児童が、ペアで学習することのよさは、

お互いにアイデアを出し合い、学び合いながら、学習をすることができる。

お互いに助け合い、励まし合って学習を進めることができる。

お互いのよさや不備なことに気付くことができる。

などがあげられる。つまり、学習を進めていくときにお互いの学習の様子を把握しやすい。ここでは、それをもとにペアで相談や相互評価を行う。

ペア交流とはそれぞれの課題を持った二人が一对一の相談や相互評価をする交流会のことである。ペア交流のよさは、相談を繰り返しながら、内容について深めていくことができる。また、自分のペアに責任を持って、よさを見つけたりアドバイスをしたりできる。そのため、観点を持って友達のよさを見つけようとする姿勢を持てる。それによって、自分なりの観点がわかってくる。友達のよさがわかり、観点がわかるようになると、自分の活動についても振り返る力が付き、活動を深めていくことができる。この交流を継続的に積み重ねていくことによって、友達の活動をずっと見つめていくことになり、友達の活動の進展がわかり、それとともに

自分の活動の進展に気付くことができ、自分の学習の深まりにも気付くことができる。

基本的なペア交流の方法を以下に示す。

ペアの組み方	単元の最初から最後まで組む基本のペアを決めておき、必ず交流する。 基本のペアはクラス内で自由に二人組を作る。 初めに基本のペアで交流し、その後は、自由にペアを変え、いろいろな友達と交流をくり返す。
交流するとき	ペアの友達の意見を聞いた後に 理由を聞く。 質問する。 相談したいこと、困っていることを聞く。 よかったこと、直した方がよいことを伝える。 ～ を提示し、それをきっかけに相談を進めていくようにする。
振り返るときの観点	まとめ方（課題、理由、伝えたいこと、絵、図、わかったこと、考え） 表現（伝える方法、声の大きさ、動き、構成のしかた） ～ を提示し、相互評価をし、話し合うようにする。
注意	相手の立場を考え、思いやりを持って、活動をしていくようにする。

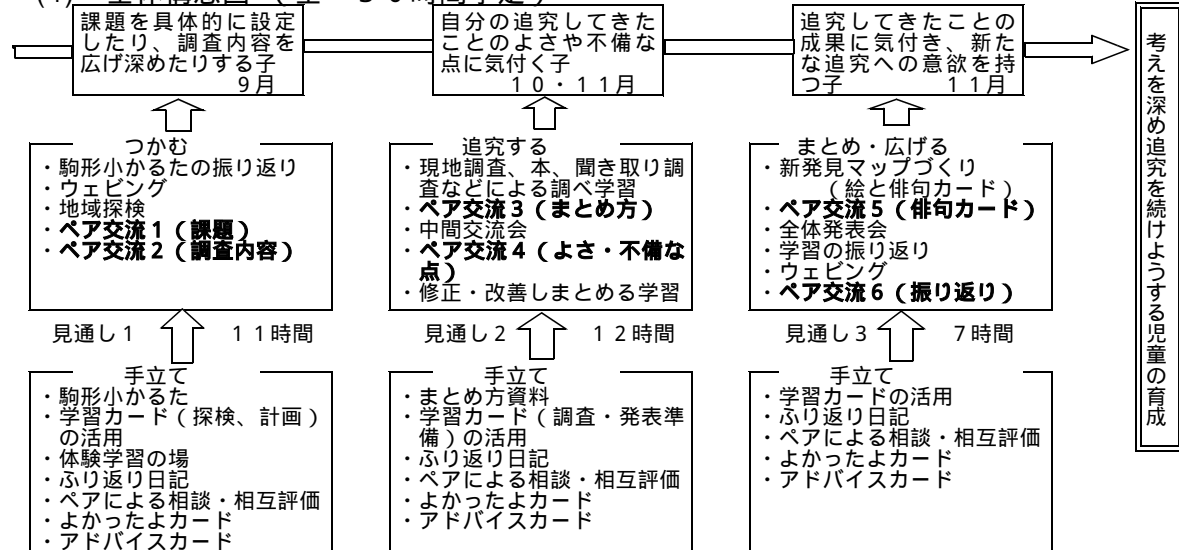
また、ペア交流 1～6 の効果を以下のように考えた。

ペア交流 1	いろいろな課題を知り、自分の課題を絞り込むことができる。
2	質問を考え、課題を具体的に設定することができる。
3	自分のまとめ方のよさや不備な点に気付くことができる。
4	調べてきた内容やまとめ方などのよさや不備な点に気付くことができる。
5	俳句を紹介し合い、直していくことができる。
6	わかったことや地域に対する思いを話し合い、学習を振り返ることができる。

(3) 「知らせよう！新発見 駒形の人やまち」とは

現在の駒形の地域の人やまちについて調べ、多くの人に知らせていこうとする題材である。駒形小かるたを振り返る活動や地域探検で見つけた発見の中から、今まで何気なく見ていた地域や人々をより深く見つめることができる。そして、自分なりによく見つけたなと思うところを手がかりに自分の課題を見付けていく。その課題を追究していく活動を通して、地域や地域の人々のよさや、それに気付いた自分や友達のよさにも気付く。また、人との出会いやふれあいを通して、地域の中で生きている自分について考えることのできる題材である。

(4) 全体構想図（全 30 時間予定）



2 実践の概要及び結果と考察

考察は、抽出児の活動を中心に授業記録やふり回り日記、学習カード、意識調査に記述された内容等をもとに行う。表や図はA子の学級(28名)を抽出して集計した。

抽出児A子：課題に真剣に取り組むことができるが、自分の意見を発表することには消極的である。本単元の事前調査では、駒形のよいところは昔のものや古い家がいっぱいあると答えており、地域にある歴史のあるものについて知っていたが、住んでいる人についての気付きはなかった。B子はペア交流で自由にペアを変えたときに組んだ児童である。

(1) 課題を具体的に設定することができたか。(見通し1)

ア 実践の概要

自分たちの住んでいる駒形について駒形小かるたの振り返りとウェビングをした。その後、地域探検に出かけ、いろいろな発見をしてきた。それをもとに自分で興味を持ったこと、調べてみたいことなどいくつかの課題を考え、調査内容を広げ深め、ペア交流をし、自分がみんなに知らせたいのは駒形のどんなことなのか自分の課題を明確にしていった。

イ 結果と考察

各自でウェビングを行った。それをもとにクラス全体のマップを作成した。児童からは「駒形にこんないろいろなところがあるなんて知らなかった。」という感想が多く、人についての気付きはほとんどなかった。A子は図1のようなウェビングを行った。「店がいっぱいあった。これから調べて、いろいろな店のことを知りたい。」という感想から店に対する関心を持っていることがわかる。

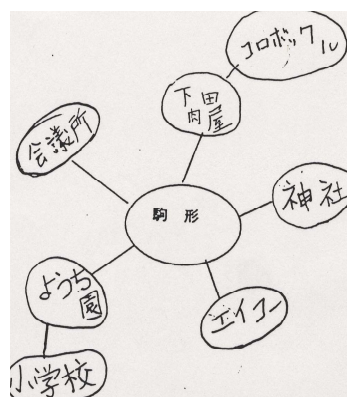


図1 A子のウェビング

ウェビングから自分たちが調べに行きたい場所を絞り込んだ。地域探検には、不思議なもの、おもしろいと思ったものなど、実際に自分の目で見て気付いたことをたくさん探してこようというめあてを持って出かけた。たんけんカードには、具体性があり、課題や問題内容がわかるようにメモをとってこようようにした。

探検後、自分の調べてみたい課題をいくつか考えたところ、全員が調べてみたいことを書いていた。そこで、「自分の課題」「調査方法」について相談するペア交流1を行った。ペア交流のしかたを提示し、調べた理由やおもしろかったことなど出し合った。「調べたいことがいっぱいあってすごい。」「真楽寺の七不思議がおもしろい。」

などの声が聞かれ、意欲を持つ児童が出てきた。そして、自分の課題を絞り込んだ。

ふり回り日記に記述された感想の内容分析を行った結果が表1である。「みんなからアドバイスカードやよかったよカードをもらってうれしかった。みんなからいろいろ聞いた。みんないろいろ考えて、課題をいっ

ぱいつくってすごいと思った。」の感想からもわかるように、ペア交流1をしたことにより視野や情報が広がり、課題に対する意識が高まってきたと考えられる。

A子は地域探検で22年前に駒形小で先生をしていたHさんに偶然声をかけてもらい、とても興味を示していた。ペア交流1では「Hさんのことを調べるのはいい。」という「よかった

表1 ペア交流1を終えて

視野・情報の広がり	
意識の高まり(両方)	11名
視野・情報の広がりのみ	4名
意識の高まりのみ	8名
両方なし	5名

資料1 A子の感想

友達や課題をいっぱい考えてるのが良かった。でも友達からHさんのことを調べるのはいいと思われたいからもあるし、このことを知っているのは私とSちゃんとTちゃんしか知らないことだったのでせつたい調べたいと思った。

よカード」をもらった。B子からは「Hさんのうちを知っていればOK!」というアドバイスをもらった。資料1からわかるように、いろいろな課題にふれることができ視野・情報を広げることができたと考える。しかし、Hさんという訪ねてみたい対象を決めることはできたが、訪ねることにより、どんなことを解決したいのかははっきりしなかった。その後、電話帳からHさんを見つけ、住宅地図で家の場所も調べるなど、自分の課題に対して意欲的に取り組む姿が見られた。

課題を追究するために、地域の人たちにインタビューするための計画を立てた。調べ学習に行く前に、課題にせまる質問を考えたが、具体的に課題の内容がはっきりしない児童は質問する目的が明確でない質問項目をつくり出す傾向があった。また、課題の内容がはっきりしている児童のなかにも課題からずれた質問項目もあった。ペア交流2では、お互いに何について知りたいのか話し合い、質問項目や目的を相談した。質問項目数は26名が増え、「店を始めたきっかけは何ですか。」「最近コロツケの味が変わったがなぜか。」のように答えからまた次への考えが生まれてくるような質問項目も考えられた。ふり返り日記から質問項目数や考えの広がり気付いた児童が15名いた。図2からわかるように質問項目の内容を考えるうちに自分が何を調べたい明確になった児童が増えた。そして、資料2のように課題を設定できた。

A子はHさんのことを調べたいと考えていたが、実際に考えた質問項目の内容は22年前の駒形小の様子についてのものが多かった。ペアとの相談を繰り返しながら、「Hさんはどんなことをしていたのか。」「どうして2年間でやめてしまったのか。」など、Hさん自身に絞った質問項目を考えるようになった。そして、課題として「Hさんはどんな人なのか」ということを強く意識するようになった。また、質問項目数も3から8に増えた。(資料3) A子は課題を具体的に設定し、調査内容を広げることができた。

このようにして、ペア交流を重ねたことで、考えが深まり、課題を具体的に設定することができ、追究への意欲も高まったといえる。

(2) 自分の追究したことのよさや不備な点に気付くことができたか。(見通し2)

ア 実践の概要

調べたことのまとめ方についてペア交流3を行い、友達のよさについて話し合い、自分の不

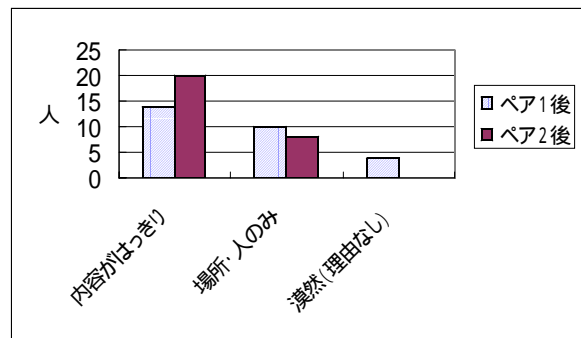


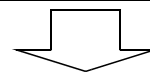
図2 課題の設定

資料2 課題の一覧 一部

- ・神社のこま犬の仕事
- ・神社の神様はどんな人がいるか
- ・駒形茂兵衛が有名になったわけ
- ・Hさんはどんな人なのか
- ・保育士になるためには
- ・ようち園の先生の仕事
- ・下田肉屋のコロツケはなぜおいしいのか
- ・おじいちゃんの作るきゅうりはなぜおいしいのか

資料3 A子の質問項目

ペ	・22年前に駒小の先生は何人いましたか。
ア	・22年前の駒小の子どもは何人いましたか。
2前	・駒小のほかにどこの学校の先生をしていましたか。



ペ	・駒小のほかにどこの学校の先生をしていましたか。
ア	・何才で先生を始めて何才でやめたのですか。
2	・それは何年から何年ですか。
後	・どうして先生になったのですか。
	・なぜ駒小の先生を2年間でやめたのですか。
	・Hさんのほかに駒形町に先生をしていた人を知っていますか。
	・いた場合、その人の名前は何ですか。
	・初めて先生になったときの学年は何年生ですか。

備な点について気付いていった。その後、中間交流会を行い、ペアへの「よかったよカード」「アドバイスカード」を書いた。中間発表会后、カードをもとにペア交流4を行った。お互いのよさを知らせ合い、不備な点について出し合い、これからの方向性について考えていった。

イ 結果と考察

調べたことをまとめ始めると、調べたことだけをそのまま写しているだけの児童が出てきたので、みんなに伝えることは何か考える場を設定した。何名かの児童の活動を紹介し、課題設定の理由やわかったこと、考えたことなどが必要であることを考えさせた。その時点で自分と友達の活動を振り返り、ペア交流3を行った。「きちんと理由が書いてある。」「わかったことや自分の考えを入れた方がいいよ。」などの声が聞かれ、修正をしていこうという意欲も伝わってきた。ペア交流3後の感想を分析したところ、自分のよさや友達のよさに気付いた児童26名、自分の不備に気付いた児童25名であった。その後各自で修正し、発表資料を作成していった。

中間交流会では、調べた感想の中に、店などで話をしてくださった地域の人々に対するよさに気付く児童がいた。また、こま犬のことについて紙芝居をしていた児童に「どうしてそんなによく知っているの?」という質問があり、その児童が「えらい人が話してくれた。」と答えたことから、一緒に神社に話を聞きにいった児童たちが、地域の方々のすごさについて話を伝えることができた。

中間交流会後のペア交流4では、「よかったよカード」と「アドバイスカード」を交換し、よさを伝え、不備な点について話し合った。「前より理由が入ってよくなった。」「保育士のことなのに保育園ことになっている。」など、よくなった点や内容についてのアドバイスもできるようになってきた。その結果、表2のように自分の追究してきたことのよさや、調べた内容が足りなかったり、課題と調べている内容がずれていたりに気付くことができた。

A子は、図や大事なことを抜き出して書いていたが、調べたかった理由や考えた

ことを伝えていなかったことにペア交流3で気付いた。B子は調べたことをそのまま写していたため、A子のよさと自分の不備について気付くことができた。中間交流会では、A子たちのグループはHさんがどんなことをしてきたのかという情報だけを知らせていた。「Hさんは話してみようでしたか。」という質問を受けた。ペア交流4では、インタビューしたときの様子について話し合い、優しく答えてくれたHさんの人柄についても知らせたいという気持ちに変化した。(資料4)

このようにして、ペア交流を行ったことによって、自分の追究したことのよさや不備な点に気付く、修正し調べようという次への追究の意欲を持つことができたといえる。

(3) 追究したことの成果に気付く、新たな追究への意欲を持つことができたか。(見通し3)

ア 実践の概要

全体発表会に向けて、不備な点を修正していった。また、調べたことを多くの人に知らせるための新発見マップの絵と俳句カード作りをした。ペア交流5でいくつかの俳句を紹介し相談し合い、カードにする俳句を作った。全体発表会では「よかったよカード」を書いた。発表後、

表2 ペア交流4を終えて

不備な点の気付き	
追究したことのよさの気付き(両方)	18名
不備な点の気付きのみ	8名
追究したことのよさの気付きのみ	1名
両方なし	1名

資料4 A子の感想

自分の発表は理由を付けたしてよく出来たと思う。中間発表が終わって、声小さかったかHさんは、どんな人がいろいろアドバイスをもらってそれを直して発表したと思う。みんなよく出来ていてみんなの発表を見ると自分のたりないところが変わった。

学習全体を振り返り、ウェビングを行った。ウェビングとカードをもとにペア交流6を行い、追究してきたことの成果と新たに興味を持ったことについて話し合った。また、作ったマップを掲示し、全校の児童に紹介したり、お世話になった方へお礼の手紙を書いたり、絵と俳句カードを渡したりした。

イ 結果と考察

不備な点の修正では、もう一度調べたことを付け足したり、課題と内容のずれを直したりできた。発表の方法を変えた児童もいた。絵と俳句カード作りは、一生懸命に取り組んだ。ペア交流5では俳句の言葉の直した方がよいところや意味のわからない点について質問もできた。また、アイデアを出し合って考えたり直したりできた。その結果、資料5のような俳句を作ることができた。全体発表会後のウェビングでは、ほとんどの児童が思ったことをすぐに言葉にしてつないでいき、今までの学習が児童の心に強く残っていることが感じられた。また、自分や友達の調べた内容に関する言葉が多く見られた。また、ペア交流6では、追究してきたことについての自信を持って話す姿が見られた。その後の感想の内容を分析した結果が、表3である。追究したことによって課題が解決できた、いろいろわかった、調べてよかったなど自分が調べてきたことに対して、満足感を持っている児童が多かった。また、自分の調べたことをもう少し調べてみたいと思っている児童や友達の調べたことに興味を広げている児童も出てきた。新たな追究への意欲を持った児童21名のなかで地域の人に対する思いを持った児童は12名おり、最初のウェビングと比べると地域の人に対する思いを持つ児童が増えた。このことから、思いの広がりや深まりが出てきたことがわかる。

A子は「昔はね 教師やってた Hさん」をはじめ4つの俳句を作ってペア交流5を行った。学校で先生をやっていたことがよくわかるという友だちの励ましや、教師より先生の方が言葉の感じが優しいというアドバイスから、「昔はね 先生やってた Hさん」という俳句に直した。また、学習を振り返ってのウェビングでは、図4のようになり、地域の場所だけでなく、内容や人についても書けるようになり地域に対する意識も広がっている。ペア交流6では、Hさんのことや駒形についてしっかりと話すことができた。その後の感想(資料6)からわかるように自分で調べてきたよさがわかり、Hさんに対する気持ち

資料5 みんなの俳句

しもにくの コロケとつても おいしいよ
土地の人 もへいのことが すきだった
Hさん やっぱ先生 むいてるね
こま犬は 神社を守る 門番だ
ごず天皇 昔はインドの 神様だ
百年間 休まず動く 駒形駅
ようち園 昔はわかこま 今はこまがた
じいちゃんの 作るきゅうりは おいしいよ

表3 ペア交流6を終えて

追究したことの成果への気付き	
新たな追究への意欲(両方)	14名
追究したことの成果への気付きのみ	6名
新たな追究への意欲のみ	7名
両方なし	1名

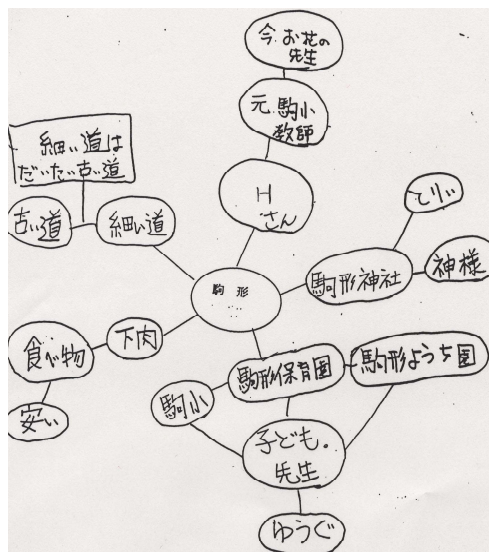


図4 A子のウェビング

資料6 A子の感想

Hさんのことを調べてよかったと思う。駒小の昔のことやHさんのしてたことなどがわかった。Hさんは質問にたくさん答えてくれていい人だと思う。駒形の人はいっぱいばかりだと思った。Hさんのこととも調べてみたいと思ってる。

も深まり、自分が追究してきたことに対する満足感も感じられ、その成果に気付いたといえる。また、新たな追究への意欲を持ったこともわかる。

考えが深まるのはどんなときか見通し1と見通し3の後に意識調査を行った結果が図5である。友達の意見を聞いたり、ペア交流が考えを深めたりするために役立つと考えている児童が増えた。また、A子についてもペアの友達のアドバイスをもらって、自分の活動について考えることができた。アドバイスをするために発表をよく聞き、考えたことも自分の活動に役立ったと感じ、ペア交流をしてよかったと感想を書いている。このように、ペア交流を意図的に設定し、それを繰り返すことが、考えを深めながら、意欲を持って次への追究を続けていくことに有効であったと考える。

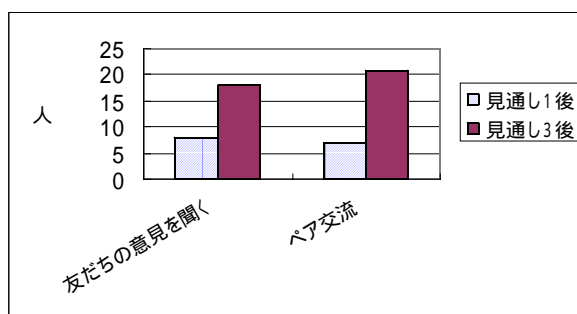


図5 考えが深まるのはどんなとき

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

ペア交流を行うことによって、自分の考えを相手に伝えたり、相手の話を聞いたりする機会が増え、自分の意見を伝えられるようになった児童が増えた。それとともに相手の助言や異なる視点からの発言をヒントに、自分の考えを明確にすることができた。また、友達の発表や考えを聞くときに観点を持って聞き、それを自分の発表やまとめ方などに生かすことができた。

ペア交流を重ねていくことによって、自分の活動を振り返り、考えを深めながら、意欲的に活動することができた。

本単元を通して、地域の中で新しい発見をしたことによって、地域や地域の人によさを改めて感じることができた。

2 今後の課題

ペア交流をするときにアドバイスのできる児童が偏ってしまうことがあり、ペアの組み方の工夫も考えていくことが必要である。また、ペア交流の場をどこで取り入れるとさらに効果があるのか探っていきたい。地域に対する思いも広がりを見せているので、今後、日常の活動のなかで地域との関わりを支援していきたい。

<参考文献>

- ・ 小島 宏・寺崎千秋 編 『総合的な学習の評価計画と評価技法』 明治図書（2000）